

取扱注意

新国立競技場を核のオリンピック施設ネットワークのひとつとして—

「オリンピック事業成功への検討会合」— 東京都内最大の再開発面積(43ha)、日本を牽引の産業転換より、政策・民間会合により検討化。
 超党派の国会議員会合、国(国交省他)、東京都、民間(トヨタ他代表企業)による計9回の検討会合(2014-15年)

日野自動車拠点からのオリンピック事業への成功支援を推進。
 会期前を重点的計画検討。

政府「第三の矢プロジェクト」として検討

「日野自動車・トヨタG 事業サイト」

海外の製造・販売拠点
 アジア・パシフィック/世界からの人材集約と、
 就業者サポート、研修・報奨場の提供。

=ホスピタリティ&ビジネス支援への

■「国際アジア・パシフィック・センター」
 (日野自動車—国際自動車交流会館)
 の新設。

民間/東京都/
 国交省、経産省、外務省、内閣府
 各機関支援

■FCV、EV車等の開発・普及と
 新しいエネルギー・マネジメント社会構築。

(前身)「自動車新産業特区」+「エコシティ開発」

「オリンピック事業サイト」

会期前より、

■[人材(技術者、起業家、投資家)、商材(FCV、
 FCバス、車関連MD)、省エネ・マネジメント]提供

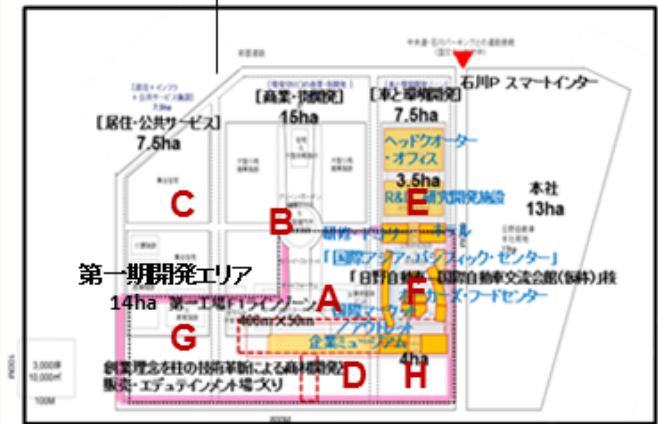
■成長エンジン=アセアン・アジア核
 ダイナミズムの、オリンピックサイトへの導入。

オリンピック事業目標

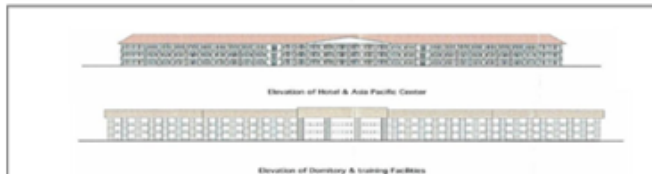
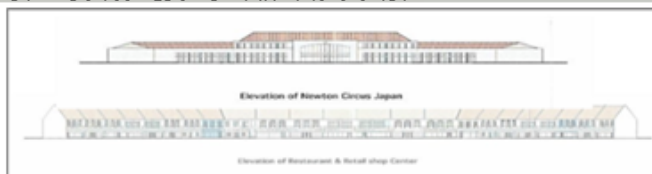
会期前(5年)と会期後10~20年…後:
 日本から始まる地球サイズでの経済成長
 と生態系の維持・成長を日本が実行。
 世界標準化、世界実現を目指す。

■スマート・エネルギー都市の実現。
 オリンピック事業を契機とする
 水素エネルギー利用による社会構築。

政府「国家戦略特区」



「アジア・パシフィック・センター」(コロニアル・デザイン)



©SUPER STUDIO INC.

隈研吾 建築都市設計事務所

A FCV核、ショウビジネス形態の
 「新しいオートモール」と、
 「日野自動車 企業ミュージアム」
 (八王子より移転)

B 都内最大の特化型 商業施設

C 新エネルギー、新交通システム導入の
 住宅エリア

D 新しい街開発ソフトの導入—[ライフ/
 ビジネス/コミュニティ・ディベロップメント

E 国際標準化機能を持つ
 R&D、ヘッドクォーター・エリア

F 「アジア・パシフィック・センター」
 国内外の優秀な起業家、技術者を集約。

G 医療・介護・高齢者支援施設、
 子育て・保育施設、文化・教育施設

H 各種エネルギー・ステーションと
 エネルギー・マネジメント・オフィス